



令和8年6月19日
道路局道路交通管理課

「続け未来に 地域の道路は たからもの」

～令和8年度「道路ふれあい月間」推進標語入選作品が決定しました～

令和8年度「道路ふれあい月間」推進標語の入選作品（最優秀賞3作品、優秀賞6作品の計9作品）が決定しました。

国土交通省では、毎年8月を「道路ふれあい月間」として、道路の愛護活動や道路の正しい利用の啓発等の各種活動を推進しており、この一環として、令和8年度「道路ふれあい月間」の推進標語を広く一般から募集した結果、全国から2,244作品の応募がありました。

これらの応募作品について、令和8年度「道路ふれあい月間」推進標語審査懇談会の小早川悟委員（日本大学工学部教授）、三好礼子委員（エッセイスト、元国際ラリースト）、やすみりえ委員（川柳作家）の3名に選考いただき、[小学生の部][中学生の部][一般の部]の部門毎に、最優秀賞1作品と優秀賞2作品を決定しました。

入選作品の応募者には、国土交通省から賞状及び盾を贈呈いたします。

入選作品の標語は、令和8年度「道路ふれあい月間」の推進のため、幅広く活用する予定です。

※委員名は五十音順

【問い合わせ先】

道路局道路交通管理課 水上、吉岡

電話 03-5253-8111（内線 37-422、37-423）

03-5253-8482（直通）

令和8年度「道路ふれあい月間」推進標語入選作品

◆ 最優秀賞（3作品）◆

「小学生の部」

「夕暮れの 一番星は 反射板」

たけばやし ゆうすけ
竹林 優佑 さん （北海道 別海町立中春別小学校）

「中学生の部」

「未来まで つないでいこう 道しるべ」

やました
山下 ひとみ さん （京都府 京都市立洛北中学校）

「一般の部」

「続け未来に 地域の道路は たからもの」

いまきた まなみ
今北 真奈美 さん （兵庫県 宝塚市）

◎最優秀賞3作品のうち、委員が特に高評価をした「続け未来に 地域の道路は たからもの」を今年度の代表標語とします。

◆ 優秀賞（6作品）◆

「小学生の部」

「限りなく 安心安全 道続く」

もとき しゅうご
本木 秀悟 さん （埼玉県 戸田市立戸田東小学校）

「ゴミ拾い 通学路への 恩返し」

つぼい ほのか
坪井 穂果 さん （埼玉県 北本市立北小学校）

「中学生の部」

「安全に 渡れば次に 繋ぐ道」

いしかわ ちさと
石川 千智 さん （神奈川県 横浜市立西金沢義務教育学校）

「その道で 笑顔と希望をバトンパス」

にしむら かのん
西村 奏音 さん （兵庫県 神戸学院大学附属中学校）

「一般の部」

「人々の 生活(くらし)の中に 生きる道」

たけうち みつとし
竹内 光利 さん （三重県 鈴鹿市）

「過積載 道路が痛い と 泣いてるよ」

いのうえ まいか
井上 舞華 さん （東京都 八王子市）

【各委員から最優秀賞作品へのコメント】

小学生の部 【 夕暮れの 一番星は 反射板 】

やすみ委員

最優秀賞「夕暮れの一番星は反射板」は、表現力の高さを感じる作品です。

見上げた空に明るく光るものを見つけた時の「ハッ」とした瞬間を切り取り、「一番星」と巧く言い換えています。交通安全とともに、道路で見つけるさまざまなものへのまなざしが伝わってきました。優秀賞の「限りなく～」も安心安全を謳い、続いていく道路へそのメッセージを込めることができている印象に残りました。

もうひとつの「ゴミ拾い～」は美化活動へ勤しむ様子だけでなく「恩返し」という言葉に心も表すことができている優れた標語ですね。

中学生の部 【 未来まで つないでいこう 道するべ 】

小早川委員

最優秀賞の作品は、審査懇談会委員の全員から評価が高かった作品です。無駄な言葉がなく、標語としてとても相応しいと感じました。また、最後の「道するべ」という単語の選択もよかったと思います。

優秀作品の2編も最優秀作品と僅差の高評価でした。「安全に渡れば次に 繋ぐ道」は、道路を「安全」に利用することと、それを未来に「繋げて」いくことの重要性が表現されている作品だと思いました。

「その道で 笑顔と希望をバトンパス」は、「バトン」という言葉を用いた作品は他にもありましたが、最後に「バトンパス」という言葉をもってきたことで、声に出して読んだときの音の響きがとてもよかったです。

一般の部 【 続け未来に 地域の道路は たからもの 】

三好委員

最優秀賞の今北さんの「続け未来に～たからもの」は、代表標語にもなりました。言葉の配置は逆にもなりますが、この並び方が「たからもの」をより強調してくれました。やすみ委員が「最初の“続け未来に”がよかったね」と仰ってましたが、五七五に拘らなくてもよいと思わせる言葉の強さがあります。優秀賞

「人々の～生きる道」では、そこを利用することで道も初めて喜ぶのかなと再認識。色々な道がありますが、共に成長していくことが大事ですね。暮らしを、生活（くらし）としたところもポイントでした。「過積載～泣いてるよ」は、そのものズバリですが、可愛くて素直でインパクトあり。道路の叫びを小さなお子さんが聞いて、「かわいそう」と訴えている様子が浮かびます。道路保全に関係ある標語が並びましたが、作る・使う・直すは大切なテーマ。道路が身近に感じられるさり気ない雰囲気もよかったですね。